

## 第2学期始業式校長挨拶（20250908）

皆さんおはようございます。いよいよ2学期が始まりました。

今年の夏は、それにしても暑かったですね。猛暑というよりも酷暑だったと思います。そうした中、それぞれ充実した時間を過ごしたのではないかと思います。

さて、2学期の始まりに際し、いくつかお話をします。ただ、本日はこのあと、組会合だけでなく、高1高2は科目選択説明会やキャリアガイダンスもあり、タイトな日程になっています。したがって私の話も、お話ししなければならないことが多数あるのですが、サクサクと進めていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします。

まず、夏休み中の生徒の活躍です。

まず高3の松葉君です。7月27日から8月3日まで、南米ボリビアで開催された第37回国際情報オリンピックに日本代表として出場。見事銀メダルを受賞しました。おめでとうございます。

続いて同じく高3の堀君です。7月30日から8月6日までマレーシアで開催された第2回国際原子力科学オリンピックに日本代表として出場。見事銀メダルを獲得しました。おめでとうございます。

続いて化学グランプリです。これは化学オリンピックの国内予選を兼ねていますが、7月の一次予選、8月の二次予選と続くなかで、高3の鬼頭君、高2の加藤君がともに見事銅賞となりました。高2生は今後も国際化学オリンピック候補になる可能性があるとのことで、頑張ってもらいたいと思います。おめでとうございます。

続いて相撲です。高3の成松君。8月10日に鳥取県で開催されたインターハイ、全国高校総体に東京都代表で出場。100キログラム級で2回戦から出場。見事2回戦を突破し、惜しくも3回戦で敗れましたが、全国ベスト16になりました。おめでとうございます。

最後にもう一つクイズ研究会です。高3の服部君、馬島君、井口君のチームが、毎年夏に行われる全国高校生クイズの東京都代表として出場したと聞いています。明日オンエアされるそうですが、楽しみにしています。

今紹介したのは華々しい成果をあげた生徒だけですが、そうでなくても地道にコツコツ頑張った生徒たくさんいます。そうした武蔵生すべてに大きな拍手を送りたいと思います。

続いて連絡報告事項が四つあります。

まず一つ目は、この夏に学校内で行った工事です。

一つは校舎南側、つまり AB 組側のベランダの手すりを交換し、屋上の防水措置も行いました。去年の夏休みは CD 側を行いましたので、これで手すりの交換と防水工事は終わりになります。クラスによっては、まだ若干ベランダ立ち入り禁止のところがあるので、注意してください。

もう一つは、全教室の視聴覚設備を入れ替えました。これにより、よりスムーズな利用が可能となります。くれぐれも壊すことなく丁寧に取り扱いいただければと思います。

二つ目は食堂についてです。大学 2 号館ができあがり、その一階に座席数 600 の食堂が入りました。業者は武蔵学園と縁の深い上野精養軒です。凄いですね。

大学生のみならず高中生も利用できます。ただしいくつか注意事項も含めて、食堂についてお知らせします。

まず食券ですが、キャッシュレスです。現金は使えません。食券は券売機で購入の上、定食は配膳口にて直接食券と交換して受け取ります。麺類は調理が出来上がると掲示板に番号が出て食事を受け取れます。今までのように、中休みに事前に食券を購入すると、時間差になってしまいますので、それはできません。

次にメニューですが、定食は 634 円です。この前試食しましたが、ハンバーグでめちゃくちゃ美味しかったです。その他、麺類やカレーライスなどは 550 円、それから上野精養軒はハヤシライスが有名ですがこれも 550 円です。

セルフサービスになっているので、食べ終わったら食器は流し場に持って行ってください。ただし、食器はプラスチックではなく陶器です。丁寧に扱って割らないように注意をしてください。

そして、この食堂は大学生との共用になります。公共心、つまりみんなの幸せを考えて利用してください。「高中生のマナーが悪い」などの声が私の耳に入ってこないように、くれぐれもよろしく願います。ほとんどの武蔵生がマナーよく使っても、ほんの少数の生徒の行いによって、全体の信頼が損なわれます。公共心をよろしく願います。

なお、土曜日は食堂は営業しません。このため、土曜日に限って、現在的高中食堂の前に、キッチンカーが入ることになりました。その場合は、現在的高中の集会所で食事をする仕組みにします。

そのことも含め、食堂の利用方法の詳細は、プリントを作成しました。このあとの組合で組主任から話がありますので、十分理解をし、上手に使ってほしいと思います。

次に三つ目の連絡です。いわゆる7限問題への対応についてです。

武蔵では、学習指導要領の改訂に伴い、2022年度から高校カリキュラムを変更し、今年で4年目となりました。このうち、高校1年生のカリキュラムでは、様々な科目を削ることはできないという観点から、7限を増やし、第二外国語も含めると、水曜以外は、月曜から金曜まで、高1については7限を置かざるをえないといういわゆる「7限問題」が発生しました。

実際この間やってみて、高1生の忙しさが課題となってきました。このため、武蔵の特色である第二外国語の履修者が減ったり、高校総合講座や大学との高大連携講座の履修者が減ったり、自主的な学び、自学自習の時間が減ったりしているのではないかなど、課題も増えてきたところです。

これまでの先輩方からも、7限が多い現状は何とかしてほしいとの声をいただいています。そこで、先生方の間でも、何とかできないかということで、高1の7限を2コマ解消する方向で、現在検討を進めています。その結論は、今年度末にはお伝えできると思いますが、おそらくは来年度当初というより、再来年度当初。つまり現中2生が高1になるときから7限2コマを解消するということになると思います。ただ、それに伴って、武蔵は中高一貫ですので、中学校のカリキュラムも一部ですが見直す必要が出てくると思います。そのへんは、関連する教科の先生方から、今後説明があると思います。

私は、武蔵のカリキュラムの中で、自分の知りたいこと、好きなこと、楽しいこと、論語を引き合いに「知好楽」と言っていますが、それを見出し、そして他人から強制されるのではなく「自学自習力」を鍛えてほしいと思います。さらに言うと、「たった一度の人生で自分は何を実現するのか」ということを中高生なりに真剣に考え、それぞれの「進路希望の実現」を図ってほしいと願っています。

最後に四つ目。9月17日には避難訓練が予定されています。組会合などで話があると思いますが、今年は例年行っていたグループ別会合は行わず、グラウンドへの避難訓練に集中して実施する予定です。9月は武蔵が創立した翌年の1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんで防災月間になっています。「天災は忘れた頃にやってくる」とは物理学者で文筆家だった寺田虎彦の名言と言われていますが、改めてそれぞれの防災意識を確認するとともに、9月17日に行われる避難訓練も緊張感をもって取り組んでほしいと思います。なお、備蓄庫にある2Lの保存水も一人一本、希望者に先着順で放出するそうです。

さて、以上が連絡で、次にいよいよ本番の話をしたいと思います。

私は武蔵の校長になって以来、2学期の始業式は皆さんに戦争や平和の話をしたと思っています。

というのも、私が生まれたのは1957年。今思えば戦後12年でした。そして武蔵に入ったのは1970年、その時は戦後25年だったんですね。当時の大人たちはみな何かしら戦争を経験していましたが、私たちは「戦争を知らない子供たち」という歌にあるように戦争はぴんと来ていませんでした。それでも、池袋の駅には、傷痕軍人といって、戦争で足をなくしたり手をなくしたりした人が、街角でハーモニカやアコーディオンなどを弾いている姿を目にしました。また、政治的に見て右の人も左の人も、「戦争だけは絶対にやってはだめだ」という空気があったと思います。みんなが、それぞれ、戦争の痛みを実感していた時代だと思います。

そして今戦後80年。私はそうした空気感は少し薄らいでいるのではないかと思います。同時に、世界を見渡してみると、極めて厳しい国際社会の状況があります。だからこそ、改めて戦争ってなんだ、どうなんだということを考える必要があると思います。

私は今年、春に広島、夏にアウシュビッツに行ってきました。行ったことがある人はどのくらいいますか。

そこで、今日はこの二か所について見てきたものを皆さんに紹介したいと思います。そんなもの見たくないという人は目を伏せても結構ですが、80年前の現実には私たちは向き合わなければならないと思っています。

(スライド上映)

私はどんなことがあっても戦争はよくないと思います。第二次世界大戦が終わった後、世界は反省し、国際連合そして国際連合教育文化機関（ユネスコ）を作りました。そのユネスコ憲章前文は次のような文章でできています。

この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主

義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。……

政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。……

そうだなあとと思います。アウシュビッツの痛みを知っているのなら、なぜ今、ガザで同じ痛みを与えて心が痛まないのかと私は思います。きっと心を痛めている人もたくさんいると思います。

今日皆さんにお話しした内容はほんの一部です。アウシュビッツや広島については、例えば特別授業などで、また機会を見つけてお話ができればと思いますので、興味のある方はぜひいらっしゃってください。また、機会があればいつか、皆さん自身で広島や長崎の原爆資料館、そしてアウシュビッツも訪れてみてほしいと思います。

改めて、こんな風に始業式が行えることは幸せなことだと思います。

その幸せをかみしめて、そして気持ちを切り替えて、最後に、この二学期に武蔵に来てくれたドイツ・ミュンヘンとフランス・ラロシエルからの留学生を紹介したいと思います。

改めて、留学生の皆さんが武蔵での楽しい思い出が作れるよう、武蔵生一人一人の協力をよろしくお願いします。有難うございました。